

令和元年度第2回屋久島世界遺産地域における高層湿原保全対策検討会

議事要旨

日時：令和2年11月20日（金） 13:30～16:30

場所：鹿児島宝山ホール 2階（第3会議室）

Web方式（屋久島文化村センター／屋久島世界遺産センター／千葉大学）

●議事(1)令和2年度に実施したモニタリング調査、試行的保全対策等について(中間報告)

資料1 検討会全体スケジュール及び各種モニタリング調査、試行的対策実施項目

資料2 小花之江河における植生保護柵設置後の植生回復調査

資料3 水の収支、地下水、水温・気温等モニタリング調査

- ・黒味岳方面から集まった水は花之江河湿原を経由することなく直接小楊枝川に注いでいる。水の収支からいえば、湿原は集水面積が小さく供給される水が少ないため厳しい環境にある。（下川委員）
- ・泥炭温度及び水温については、夏場は高い傾向にあるが、以前からの傾向であるのかは過去のデータをもとに考察する。こういった傾向は、泥炭の分解速度に影響するのではないか。（下川委員）
- ・流域面積が確定したことで、比流量で比較する限り花之江河と小花之江河は似たような条件下にあるということがこれで読み取れる。（寺本委員）
- ・スギやヒノキであれば年間蒸発散量がおおよそ1,000ミリ前後といわれている。湿原は水面から植生が覆っていないこと、水面がかなり露出していることから蒸発する量はかなり多いと感じている。（寺本委員）
- ・花之江河の流入は流出よりも大きいということで、一時的に堆積層の中に入る。水収支でいうと貯留量に相当する。（寺本委員）

資料4-1 湿原地質の調査

資料4-2 湿原のボーリング調査と花粉分析の結果報告

- ・B地点は少し高い場所になっており、削り残しで高くなっている可能性がある。ただ、A地点に向かってCとDを結んだとしても、少し高くなるため、全体的に見てもA地点へ向かって少し高くなるような傾向にはあると思う。（吉田）
- ・一番基盤が削られていた時代の水路は、ビヤクシンがある辺りのほうが地盤は低いので、Q地点辺りを經由して下流方向へ「くの字」に折れているのではないかと思われる。（吉田委員、下川委員）
- ・上流側に向かって地盤が下がっているため、表流水は花之江河に入ったとしても、地下でかなり水が安房川流域へ流れていると考えざるを得ない。それを確認するためには、花之江河Aの右側の断面を確認する必要があると思われる。（下川委員）

資料5 ドローンによる湿原撮影、湛水域、植物群落図面

- ・これまで確認のなかった場所にヤクシマダケが入っている。群落になっているので、生育地の拡大の有

無について、引き続きモニタリングが必要と思われる。(百原委員)

- ・湿原上流から、もしくは湿原内に入った土砂が再移動することから、湿原表面の土砂は結構動いていると思われる。このため、5年おきの調査で土砂が移動または消失しているような結果となっているが、それ以上の移動の理由は把握できない。(下川委員)

資料6 R2年度のハバメシジミ生息調査

- ・当該種が確認されている生息地への土砂流入箇所が明確になっている。このため、応急的な対策と抜本的な対策が必要であるが、応急的な対策は、早急に関係機関で取り組んでいただきたいことを提案する。恒久的な対策については本検討会もしくは科学委員会での意見交換が必要になるかと思う。(下川委員)
- ・応急的な対応では、木道下の浸食を緩和させるような対応となるが、大きな構造物を設置することはない。(下川委員)
- ・ハバメシジミの保全と、小花之江河の保全という2つ観点で、広い視点で検討することが必要かと思う。関係者の皆さまや有識者の方々と意見交換させてもらいたい。(丸之内管理企画官)
- ・対策をする場合、景観的に配慮してほしい。また、湿原を利用する登山者等への周知として、看板等の設置をお願いしたい。(ガイド連盟 古賀代表、ガイド部会 伊熊副部長)

資料7 試行的保全対策の実施

- ・丸太木柵工の設置箇所より上流側で土砂が蓄積するということは、湿原上流側から浸食された土砂のうち、かなりの量が湿原内へ運ばれている。土砂がかなり動いているということになる。(下川委員)
- ・木柵工によって流路の浸食や水位がどう変化するのか、もう少しこの試行的保全対策の効果について推移を見守りたい。(下川委員)

●議事(2)令和3年度に実施するモニタリング調査等、令和3年度検討会について(予定)

資料8 令和3年度に実施するモニタリング調査等及び検討会について

- ・次年度は花之江河の横断方向に測量及び地下基盤を調査することで、地下形状や発達過程を明らかにしていく。(吉田委員)
- ・両湿原内の植生部分については、高精度のGPSを用いた測量で地形図を作成するが、一方、レーザー測量についても実施の要望はしていきたい。(吉田委員、井村委員)
- ・花之江河の流入口の観測点は移さざるを得ないが、引き続き観測を実施するという事で、湿原における水収支を解明していくことになる。次年度もさらにデータを集積していくということになる。(下川委員)